

■スリングショット・アーギュメントへの批判

奇妙な帰結が生まれるは、次の二つが同じ対象を指示すると考えたことである。

① $(\iota x)(x=a \ \& \ p)$

② $(\iota x)(x=a \ \& \ r)$

この二つは同じ対象を指示するが、その内包（対象の与えられ方、対象の捉え方）はこととなる。対象の捉え方が異なる場合には、代入できないと考えれば、スリングショット・アーギュメントは批判できる。

この批判が正しいとすると、＜原因と結果の関係に立つ出来事は、我々がどのようにそれらの出来事を捉えるかとは無関係に存在しているものである＞というような因果関係についての実在論的な理解を捨てて、＜出来事間の因果関係は、それらの出来事を我々がどのように理解するか依存している＞という主観的な理解を採用することになる。

§ 7 心身問題

参考文献

- ・ジョン・サール『マインド』山本貴光・吉川浩満訳、朝日出版社
- ・Wikipedia「心の哲学」

0. 心身問題とは何か。

心身問題とは、「心と脳はどのように関係しているのか」という問題である。これに対する答えは次のように分類できる。

1 二元論 (Dualism) : 物心二元論

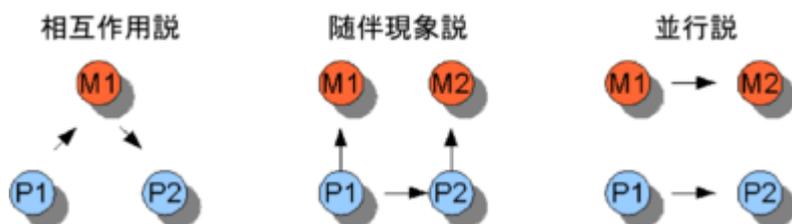
相互作用二元論 (Interactionist dualism) デカルトの物心二元論

心身並行説 (Parallelism) ライブニッツの予定調和(pre-established harmony)説

機会原因論 (Occasionalism) マールブランシュの機会原因論 (神が物心の変化を引き起こしている)

随伴現象説 (Epiphenomenalism) トーマス・ヘンリー・ハクスリー (心的現象は因果的に無力である)

フランク・ジャクソン



三つの異なる二元論。左から相互作用説、随伴現象説、並行説（性質二元論は描かれていない）。Pは物理的状态 (Physical state) を、Mは心的状態 (Mental state) を、そして矢印は因果的な原因から結果へ方向を表す。

物心二元論の問題点：「心と物の間の作用をどのように説明するのか」

「物理的因果の閉鎖性」と心と物の間の作用の想定は矛盾する。

「物理的因果の閉鎖性」とは、＜物理的な力が作用する対象は物理的なものであり、物理的な因果性は、物理的な出来事の間に関係であり、物理的な出来事の内部に閉じている＞ということである。もし物的な出来事と心的な出来事の間には作用があるのならば、その作用は物的な作用であり、その場合の心的出来事は、実は物的な出来事の一部である。あるいは、どちらも心的な出来事である。どちらの場合にせよ、二元論は成り立たない。

もし「二元論」が＜二つの種類の出来事ないし存在者があって、それらが異質であり、互いに作用しない＞と考える立場であるならば、心と物の二元論では、両者の間に作用はないことになる。しかしそれは、我々の常識に反する。

2 一元論 (Monism)

① 観念論 (Idealism) 唯心論 (Mentalism) (バークリ、フィヒテ、シェリング、ヘーゲル)

② 中立一元論 (Neutral monism) (センスデータ一元論、現象一元論、ラッセル、論理実証主義、スピノザ)

③ 物理主義 (Physicalism) 唯物論 (Materialism)

(1) 物理主義の分類

■ 行動主義 (Behaviorism)

心理学の行動主義 (心を扱わず、観察可能な行動のみを扱う) (スキナー)

哲学的行動主義 (言葉の意味は、その使用である) (ヴィトゲンシュタイン、クワイン)

経験的な学習を重視する行動主義は、生得的な言語能力の存在を主張するチョムスキーによって否定された。

■ タイプ同一性 (Type-identity theory) タイプ物理主義 (Type physicalism)

J. J. C. Smart, Ullin Place

「コーヒーを一杯欲しいという欲求」 = 「脳のある領域のあるニューロンの発火」

これに対しては、Hilary Putnam は、多重実現可能性 (multiple realizability) を想定して、心は脳の状態と同一ではないと主張した。

■ 機能主義 (Functionalism)

Hilary Putnam, Jerry Fodor. computational theory of mind.

心は、脳の機能に還元される。その意味では心は脳やコンピュータの機能と同一である。

■ 消去主義的唯物論

チャーチランド：心的状態は、日常の「素朴心理学」(フォークサイコロジー) が持ち込んだ虚構である。

■ 非還元主義的物理主義

心は、脳の状態や機能に還元できないと考える立場。そのために、付随性 (supervenience) を主張する。

Donald Davidson 「非法則的一元論」「トークン同一説」

3、物理主義に対するハードプロブレム：クオリアの存在

(1) クオリアとは何か（「クオリア」 wikipedia）

クオリア（[英](#)：複数形 qualia、単数形 quale クワール）とは、心的生活のうち、[内観](#)によって知られる現象的側面のこと、とりわけそれを構成する個々の質、感覚のことをいう。日本語では感覚質（かんかくしつ）と訳される。

(2) クオリアが存在するなら、物理主義は間違いだ

思考実験

- 哲学的ゾンビ（Philosophical Zombie）
- 逆転クオリア
- マリーの部屋
- 中国語の部屋

■ 「ゾンビ論法」（zombie argument）とは物理主義を批判する以下の論証を指す。（「哲学的ゾンビ」 wikipedia）

1. 我々の世界には意識体験がある。

意識、クオリア、経験、感覚など様々な名前と呼ばれる「ソレ」が、「ある」という主張である。ここは基本的に素朴な主張である。

2. 物理的には我々の世界と同一でありながら、我々の世界の意識に関する肯定的な事実が成り立たない、論理的に可能な世界が存在する。

現在の物理学では、意識、クオリア、経験、感覚を全く欠いた世界が想像可能であることを主張する。この哲学的ゾンビだけがいる世界を、ゾンビワールドと言う。

3. したがって意識に関する事実は、物理的事実とはまた別の、われわれの世界に関する異なる事実である。

ゾンビワールドに欠けているが、私達の現実世界には、意識、クオリア、経験、感覚が備わっているという事実がある。それは、現在の物理法則には含まれていない。

4. ゆえに唯物論は偽である。

■ [逆転クオリア](#)（「クオリア」 wikipedia）

同等の物理現象に対して、異質のクオリアがともなっている可能性を考える思考実験。色についての議論が最も分かりやすいため、色彩について論じられることが最も多い。同じ波長の光を受け取っている異なる人間が、異なる「赤さ」または「青さ」を経験するパターンがよく議論される。逆転スペクトルとも呼ばれる。

逆転クオリア 同じ周波数の光を受け取っている人間が、違う「赤さ」、つまり異なる赤のクオリアを体験している可能性を考える思考実験。逆転スペクトルとも呼ばれる。

■ [マリーの部屋](#)（「クオリア」 wikipedia）

マリーの部屋（Mary's Room）とは、[フランク・ジャクソン](#)が「随伴現象的クオリア」"Epiphenomenal Qualia" (1982)、さらに「マリーが知らなかったこと」"What Mary Didn't Know" (1986) という論文の中で提示した。

：生まれたときから白黒の部屋に閉じ込められている仮想の少女マリーについてのお話。マリーは白、黒、灰色だけで構成された部屋の中で、白黒の本だけを読みながら色彩についてのありとあらゆる学問を修める。その後、この部屋から解放されたマリーは色鮮やかな外の世界に出会い、初めて色、というものを実際に体験するが、この体験（色のクオリアの体験）は、マリーのまだ知らなかった知識のはずである。このことからクオリアが物理学的・化学的な現象には還元しきれないことを主張する。

